

英語 — 岡山大学 2025 年入試問題分析 — 岡山進研学院

<b>全体講評：</b> 例年通りの大問数、及び設問形式であり、受験生にとっては日頃の学習と対策勉強の成果が、そのまま得点として反映される良問である。試験時間 120 分に不足はなく、「正確に読み精確に書く」という、地に足のついた「オーソドックスな学び」を継続してきた受験生が合格点を勝ち取ることができるように工夫されている。	<b>試験時間</b>	120 分
	<b>難易変化</b>	易化／やや易化／ <u>昨年並</u> ／やや難化／難化
	<b>分量変化</b>	減少／やや減少／ <u>昨年並</u> ／やや増加／増加

大問	類型	内容 及び 講評	レベル
問 1	読解総合	本文語数は 803 語で、The Japan Times からの引用であった。テーマは「元気な高齢者」であり、非常に平易な文章なので、手際よく解答して、時間を稼ぎたいところだ。	★
問 2	読解総合	本文語数は 1013 語で、読解問題のテーマとして頻出の「するべきことの先延ばし」であった。テーマが同様の趣旨となっている問題が 2020 年 <u>1</u> に出題されている。	★
問 3	和文英訳	岡山大学特別招聘教授である隈研吾氏の書いた「建築様式」に関する文章からの引用で、出版年が 1994 年であることに注意しておきたい。英語表現しやすいように、日本語の翻訳に工夫が必要である。	★★★
問 4	テーマ英作文	「本学で学びたいことは何か」という、まさに自由作文ど真ん中のテーマであった。対策として定番的なテーマについて検討及び作文練習してきた受験生は有利である。	★

<b>学習指針：</b> 実践的なアドバイスとして、読解問題では「問の先読み」など、本文を読む前の「下ごしらえ」が極めて重要である。本文を読む際は、くれぐれも「訳さない」ことを肝に銘じておきたい。 作文問題では、与えられた日本語(和文)をその「意味内容」を汲み取って、英語表現しやすいように予め「翻訳」しておくことが欠かせない。この和文翻訳の力 <small>ちから</small> こそが英訳力の中核なのである。	※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比と なっています。 ※ レベル表示は次の区分になります。 難 → ★★★ やや難 → ★★ 標準 → ★ やや易 → (無表示) 易 → (無表示)
---	---